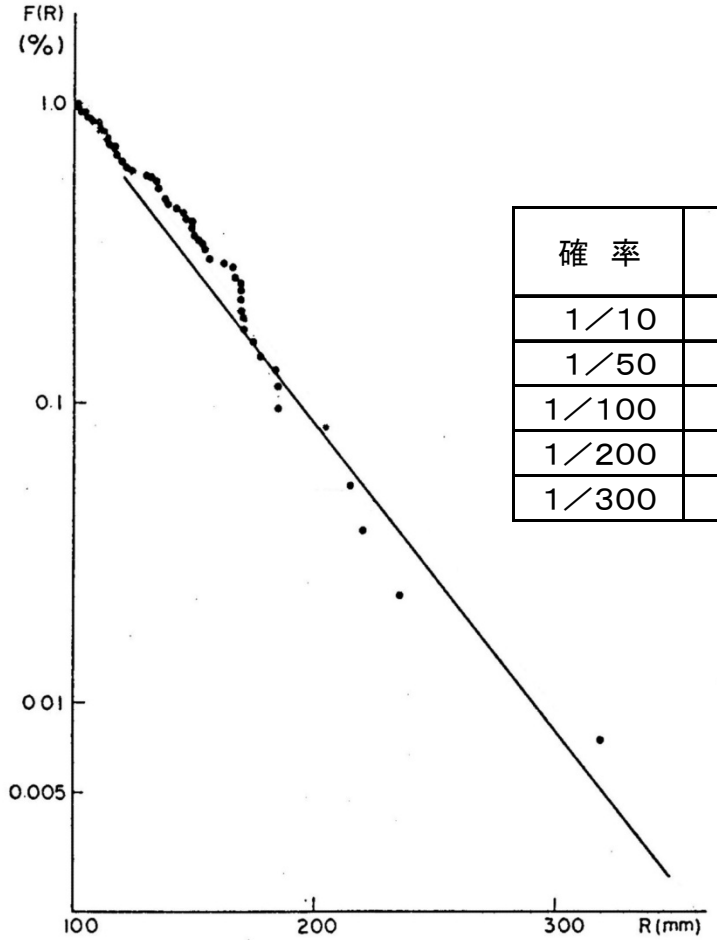
資料6

総合確率法について

確率流量の算定(総合確率法)

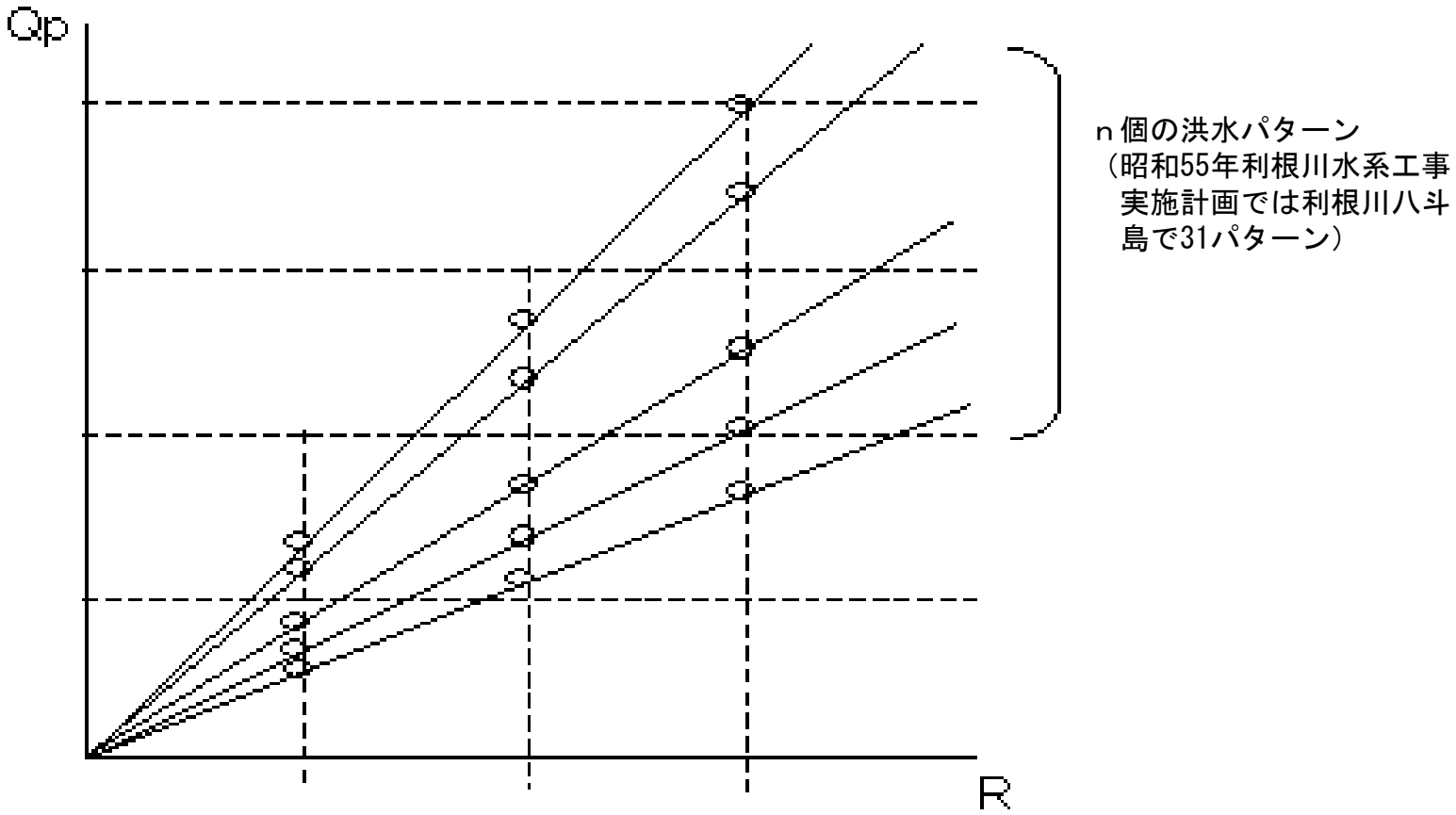
流域の過去の代表洪水における降雨波形について、総降雨量を任意に与えて流出計算することにより得られる最大流量の生起状況を総降雨量の生起状況から推算し、確率流量を把握するものとした。

○八斗島地点では、明治34年から昭和49年までの74年間について、100mm以上の流域平均3日雨量（67降雨）を確率処理し、確率降雨量を算定。

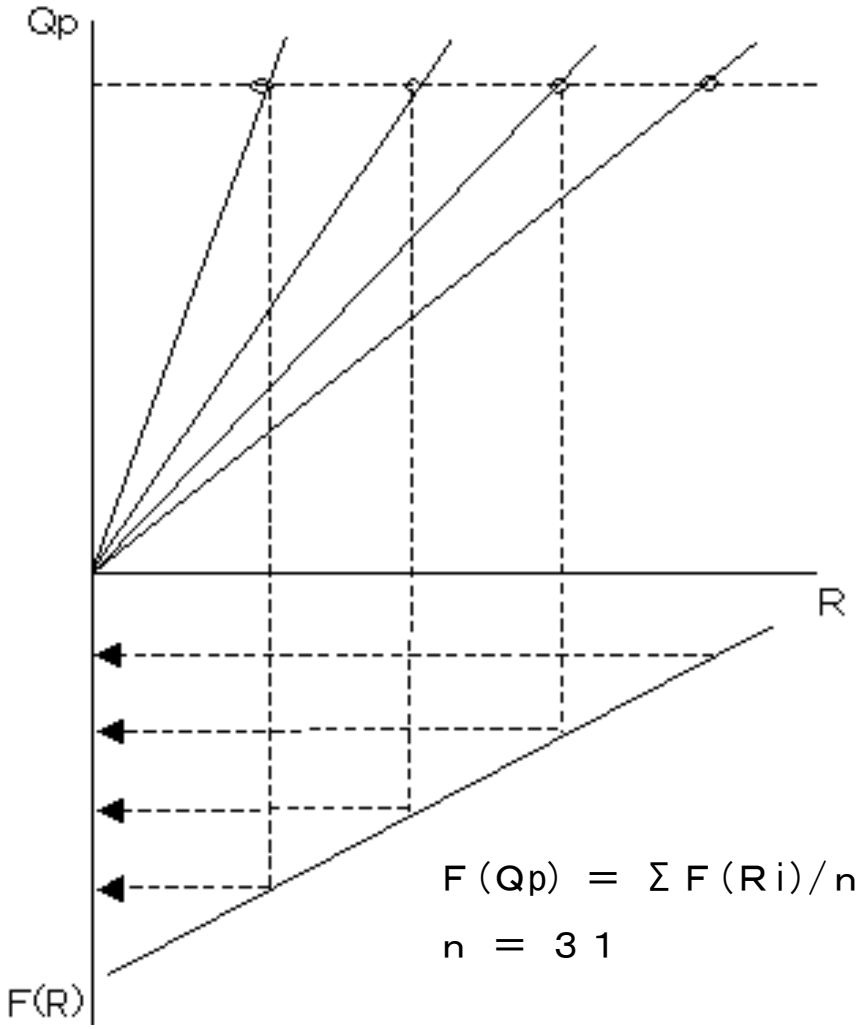
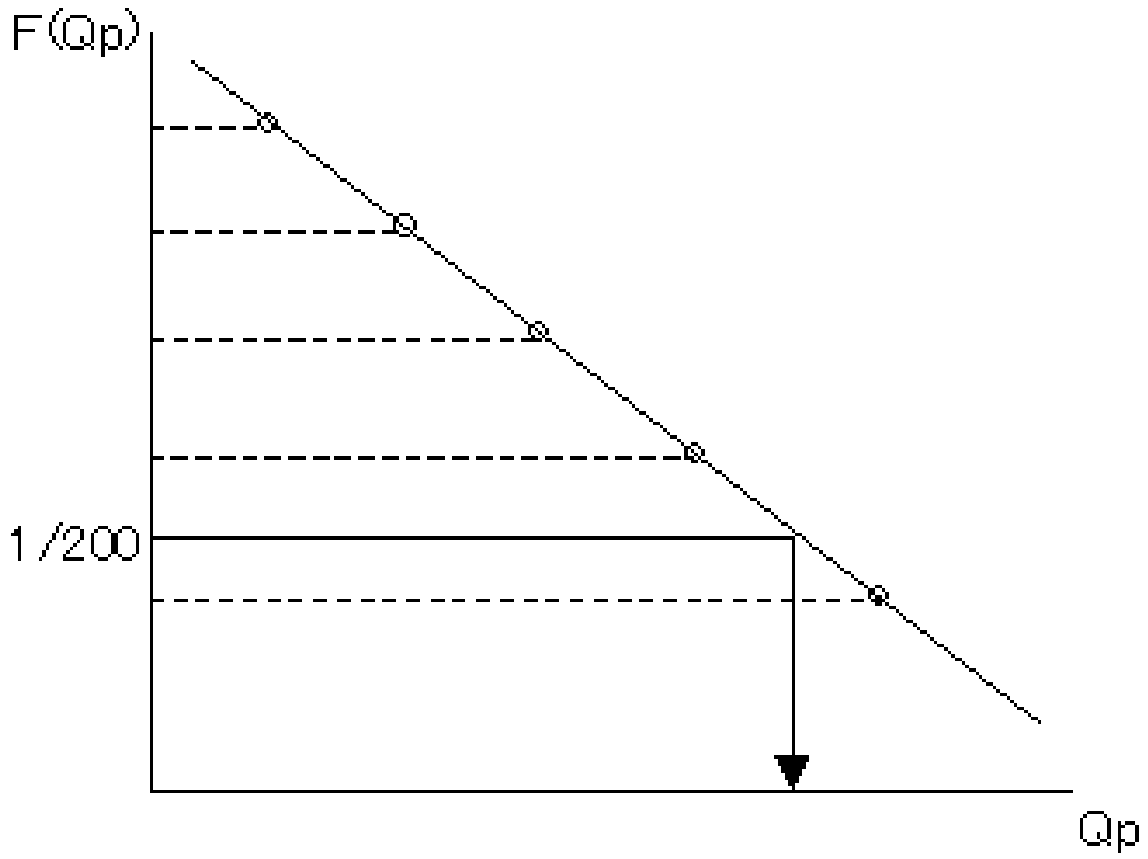


確　率	確率雨量 (mm)
1／10	193
1／50	261
1／100	290
1／200	319
1／300	336

○任意の流域平均3日雨量（R）に引き伸ばした際のピーク流量（Qp）を算定し、各波形のRとQpの関係を把握



○降雨波形毎のＱｐ－Ｒ関係から、ある任意のＱｐが生じるＲを波形数だけ抽出し、各々のＲの年超過確率Ｆ（Ｒ）を平均したものを、そのＱｐの年超過確率Ｆ（Ｑｐ）と定義



○様々なQpについてF(Qp)を算定し、その関係から計画規模相当の確率流量を算定